



看護学校での経験を人材紹介でも生かす森田祐明代表取締役

やりがいを感じている看護学校教員もいるだろう。同じ看護教員であつても、求められる教員像にはかなりのギャップがある。

### 大切な「動機付け要因」

森田氏の経験則では、看護学校教員の場合、「学生指導そのものにやりがいを感じる人がとても多い」と言う。ハーバーバーグの「動機付け・衛生理論」に頼るなら、看護教員のリクルートティングの世界では「動機付け要因」が強く働く。

やがいを感じていると「見えそうだ。同じ看護系でも、「年収600万円以上」「残業ゼロ」などの「衛生要因」が目に付く。昨今の看護師のリクルートティングの世界とでは、そこが極めて対照的だ。

「学生の定員数が限られた看護教育の現場は、収益構造的にも利益が上がりにくい職場です。看護教員の給料も、夜勤手当などがある看護師に比べれば低水準です。いくら看護師としての臨床経験が豊富な人でも、学校での教育指導の経験がなければ、教育者としては新人であり、病院などで勤務時代に比べて、収入が大幅ダウンしてしまうこともあります。それだけに看護師教育に対する志や思い入れがなければなかなか務まらない。条件面だけで判断するなら、割に合わないと考えてしまう人がいても、不思議ではないのが実情なのです」。

そうした現場の看護師との「出入格差」も影響してか、看護師を育てる教育現場では現在、平均年齢は50代と「教員の高齢化」が加速。さらに30代、40代の中堅教員の空洞化も進み、次代の学校運営

### 相次ぐ看護系学校の開校

今年の4月から、5校の新設大学の開校が予定されている。そのうちの4校は看護系である。また、既存大学においても13校で新たな学部が誕生するが、13学部の内、6学部は看護系。さらに新たに学科申請の大学も4校あるが、そのうちの1学科は看護系。

新たに11の「学びの場」が誕生し、

その新設の大学・学部・学科だけで885人の学生が「看護師の卵」として入学する予定だ。

「新設の専門学校（看護学校）の入学者数も加えると、私の試算では約1200人。対前年比でそれがだけの学生が新たに増加するわけです」。

そして、それに看護系の既存校の新入生が加わる。

「大学で一つの看護系の学科を作る場合、新たに最低でも21人の看護教員が必要です。当社では看護教員の質の担保のための支援事業も計画中ですが、今は人材紹介という仕組みを活用しながら、数の部分での支援に注力したいと思っています」。

同社の「事業概要」には、「看護教員に特化した人材紹介事業」と併せて、「看護師をはじめとする医療・介護従事者養成支援事業」という、もう一つの事業の柱が書かれている。

「看護基礎教育」の支援を事業目標に掲げる同社の孤高の志を、これからも見守りたい――。

# 「支援者」としての 人材ビジネス

高齢者雇用・障がい者雇用・外国人雇用  
育児女性雇用・フリーター雇用

社会貢献のキーワードから探る  
派遣・紹介の「もうひとつの役割」 リポート 伊藤秀範

### 第三十四回 看護教員の「潜在需要」に光を当てる! ミライブリッジの「看護教員」人材紹介 後編

昨年春の看護師「国家試験」合格者は初めて5万人を突破した。看護系新設校も増加傾向にある中、業界唯一の看護教員に特化した人材紹介を行うミライブリッジの存在感が高まりつつある。後編の今回は、看護教員の「潜在需要」に光を当てる同社の孤高の取り組みに着目したい。

### 「教員要件の不理解」 をなくす試み



ト開設の理由をこう語る。  
前編（本誌1月号）でも触れたが、2011年にミライブリッジを設立する以前、森田氏は新設の看護学校の設立・運営に関わった経緯がある。看護教員の採用にも携わり、人材紹介会社や求人媒体など、人材獲得のための多くのチャネルを活用した。しかし、そのたびに痛感させられたのが、「教員要件の不理解」とそれに伴うミスマッチである。

「一口に看護教員と言っても、看護系大学と看護学校には、それぞれ国で定められた教員要件があり、求める人材も異なります。人材紹介会社に『こうした要件の看護教員を求めてる』というオファーを出しても、なかなかその違います。理解してもらえないケースもありました」。

さらに、そうした教員要件というハード面だけでなく、本人の志向性というソフト面におけるミスマッチもある。

「あくまでも研究者、学者の立場で学生を指導する大学教員もいれば、学生への直接指導そのものに

### 「大学と看護学校で異なる 「求める教員像」

の大学が看護教員の募集をする場合、ほとんどは自校のホームページでの公募です。そのため、看護教員になりたいとは思っていても、そうした求人にはなかなかたどり着けないケースが多いのです。

ならば、それらの情報を集約し、業界初の試みである。「看護教員になりたいと思う人が求人情報を探そうとする」と、看護系の求人媒体で検索する一般的です。しかし、例えば看護系

例えば、こんな誤解もある。「大学で看護教員の経験がある人なら、自信を持って紹介できる」。これ

は大学の方が専門学校よりもステータスが上であるという思い込み、偏見があると、なかなかそのミスマッチ要因には気がつかないケ

スだろう。